

CSW68ユース報告会 活動報告書

2024年9月29日(日) 15:00~17:00 (JST)
オンライン (Zoom) による開催

CSW日本ユース協議会



目次	02
----	----

はじめに	05
------	----

報告会のプログラム	06
-----------	----

賓客挨拶の要約	07
---------	----

CSWの概要	10
--------	----

ユース報告の要約

12

代表団員のコメントの要約

20

質問と回答

21

CSW68に関するユースの感想

25

報告会の準備に関して

28

申込者概要	31
-------	----

報告会のアンケート結果	33
-------------	----

CSW日本ユース協議会メンバーの 所属・派遣されたNGOについて	34
-------------------------------------	----

おわりに	35
------	----

資料集	36
-----	----

CSW日本ユース協議会メンバー	56
-----------------	----

はじめに

ー報告書を作成するにあたってー

本報告書は、CSW日本ユース協議会が2024年9月29日（日）に開催した、第68回国連女性の地位委員会（以下「CSW68」と称す）の参加報告を目的とした「CSW68ユース報告会」の実施の記録です。CSW会期期間中に実施される「ユース代表インタラクティブ・ダイアログ」の議論事項が直接に合意結論に影響を与えられているのかが明らかではない状況を鑑みて、ユースが主体的に行動することの必要性を感じたことが、同報告会実施の背景となります。

本書を作成するCSW日本ユース協議会は、CSW68に派遣された、国連NGO国内女性委員会、（一社）大学女性協会、JAWW（日本女性監視機構）、日本BPW連合会、公益財団法人日本YWCAの5団体所属のユース15名のメンバーが中心となって、2024年に設立されたユース主体の全国的なネットワークです。CSW派遣ユースの縦と横のつながりの強化を図ることを目的として、団体間のユースの親交を深め、協働に向けた関係構築に努めています。一人ひとりの人権と尊厳が当たり前前に尊重されるジェンダー平等の社会の実現を目指して、国内でのCSWの認知度向上、CSW69以降の参加者への引き継ぎや情報共有に資するべく活動を展開しています。

CSW68ユース報告会は、全面オンライン（Zoom）にて15時～17時（計2時間）に実施しました。報告会は2部構成となっており、第1部では、開会挨拶の後に、大崎麻子氏（CSW68日本代表/特定非営利活動法人Gender Action Platform理事）、紙谷雅子氏（第78回,第79回国連総会政府代表顧問/学習院大学名誉教授）、鴨澤小織氏（CSW68日本政府代表団NGO代表/日本大学文理学部准教授/JAWW（日本女性監視機構）副代表）の御三方よりユースへのエールを頂戴しました。次いで、当協議会よりCSWの概要説明、ユース5名からの参加報告、更には、代表団員の古本建彦氏（外務省総合外交政策局女性参画推進室長）よりコメントをいただきました。第2部では、「CSWについてより詳しく知りたい方」を対象として、CSW68派遣ユースメンバーと参加者の交流会兼質疑応答の時間を設けました。

日本のCSW派遣ユースが団体の垣根を超えて協働し、ユース主体でCSWの報告会を実施したのは日本初の試みであったと認識しています。報告会には80名を超える方々にお申し込みいただき、当日は約60名の方々がご参加くださいました。報告会の実施後には、属性にかかわらず多くの皆様より激励のお言葉をいただき、メンバー一同大変勇気づけられました。この場をお借りして、ご登壇いただいた皆様、ご参加いただいた一般参加者の皆様に心より御礼申しあげます。この報告書を通して、CSW68ユース報告会の様子はさることながら、CSW68でのユースの経験が伝われば大変嬉しく思います。

報告会のプログラム

CSW68 ユース報告会

当日のスケジュール

第一部

15:00-16:30

司会者：白杵 ふたば（公益財団法人東京YWCA 会員）／柳 瑠音（公益財団法人京都YWCA 会員）

15:00-15:10	開会の挨拶
15:10-15:15	CSWの説明
15:15-16:05	ユースからの報告
16:05-16:10	代表団員によるコメント
16:10-16:25	質疑応答
16:25-16:30	閉会の挨拶と集合写真

第二部

16:30-17:00

ユースメンバーとの交流、質疑応答
主な対象者：CSWについてより詳しく知りたい方

登壇者

ユースへのエール

- ・ 大崎 麻子氏（CSW68日本代表／(特活)Gender Action Platform理事）
- ・ 紙谷 雅子氏（学習院大学名誉教授／第78回,第79回国連総会政府代表顧問）
- ・ 鴨澤 小織氏（CSW68日本政府代表団NGO代表／日本大学文理学部准教授）

(五十音順)

代表団員によるコメント

- ・ 古本 建彦氏（外務省総合外交政策局女性参画推進室長）

ユースからの報告

- ・ 片桐 碧海（公益財団法人日本YWCA 会員／東京医科歯科大学）
- ・ 木村 緒実（国連NGO国内女性委員会インターン／文教大学）
- ・ 鈴木 りゆか（CSW68日本政府代表団ユース代表／日本BPW連合会 会員／国際基督教大学）
- ・ 山内 彩（日本女性監視機構ユースレポーター／バーナード大学）
- ・ 横山 浩花（一般社団法人 大学女性協会 CSW68若手派遣／ノートルダム清心女子大学）

CSW68ユース報告会の広報ポスターより

賓客挨拶の要約

大崎 麻子氏 (CSW68日本代表 / (特活)GENDER ACTION PLATFORM理事)

CSW68の日本代表を務めた大崎麻子氏は、ユースへのエールとして、世界人権宣言の以下の一文を共有しました。

「人間は生まれながらにして自由であり、権利と尊厳について、平等である」
これは、自分の生き方は自分で決める、どのような差別も受けない、ということであり、私たちが目指すべき世界の理念であると述べました。その上で、国連は創設以来、一貫してこの理念を現実に落とし込むために、さまざまな枠組みを作ってきたことに言及し、そのうちの一つがCSWであると主張しました。また、国連女性差別撤廃条約やSDGsも同様であるとして紹介しました。更に、日本政府が国際的な合意事項へコミットメントをしている具体的な事例として、日本が国連に加盟をして以来のほとんどの期間、CSWの委員を務めていることや、女性差別撤廃条約が私たち国民の最高意思決定機関である国会の承認を得て批准していること、更にはSDGsには首相が署名していることをあげました。そして、新しくPact for the Futureが加わったことや、その中には将来世代への宣言が含まれていることを強調しました。

加えて、ユースたちが、自分のことを自分で決めながら、またあらゆる選択肢に制限がかかることなく、直接的にも間接的にも差別されずに生きていく、そのような社会をつくる上で、このような国際的な合意事項への日本政府によるコミットメントを積極的に活用することを呼びかけました。併せて、国が国際合意にコミットする以上、その実行責任が伴うことを指摘し、その責任の履行を監督する役割を担うのが、私たち市民社会であると主張しました。

最後に、ユースたちが、多様な世代や多様な人びとと繋がり、協力してそうした社会を築いていくことを応援しているとして、ご挨拶を締めくくりました。

賓客挨拶の要約

紙谷 雅子氏（学習院大学名誉教授 / 第78回,第79回国連総会政府代表顧問）

第78回,第79回国連総会政府代表顧問の紙谷雅子氏は、CSWにおいて10年以上にわたりNGOとして活動してきた経験を振り返り、その中で若者（ユース）の役割の重要性を深く感じてきたといいます。特に、ジェンダー平等の議論では「女性」という属性に焦点が当てられる傾向に対して、人々は複数の属性を持ち、状況や立場によって重視する価値観が異なることを指摘し、ユースも一様ではないということに言及しました。これらを踏まえ、紙谷氏は「インターセクショナルリティー（交差性）」の概念を紹介し、個々の特徴を尊重し、多様な視点を持つことの重要性を強調しました。

また、ユースの立場は一時的なものであるため、10年後や20年後に後悔することがないように、今この瞬間（現在）を最大限に活用するように参加者に呼びかけました。

最後に、将来、かつてユースであった人々が自由、平等、そして尊厳を実現するために協力し、より良い社会を築いていくことを願っていると述べ、「10年後や20年後に再び会い、共に歩むことを楽しみにしている」というメッセージで締めくくりました。

賓客挨拶の要約

鴨澤 小織氏

(CSW68日本政府代表団NGO代表 / 日本大学文理学部准教授/ JAWW (日本女性監視機構) 副代表)

鴨澤小織氏は、CSW68に日本政府代表団の一員としてNGO代表を務め、またJAWW (日本女性監視機構) では副代表としてご活躍されています。2024年3月に国連本部で開催されたCSW68において、日本の5つのNGOが15名のユースの参加を支援したことに触れ、ユースとの交流を通じてユース支援のあり方を見直す必要性に言及しました。

他方で、ユース同士がSNSを通じて必要に応じて迅速に情報を共有し、助け合う姿を目の当たりにし、かつてユースだったご自身や年長世代のNGOメンバーが現代のユースをどう支援すべきかを改めて考える時期がきていると感じたといいます。また、ご自身がユースだった頃とは異なる環境で活動している若者たちを支援するために、多様な意見を集め、発信力を育成する方法について言及しました。

更に、北京女性会議から30年を迎える今年は、女性の地位向上の新たな方向性を模索する重要な時期であり、かつてユースだった世代が次世代へどう引き継ぐべきかについて考えることの必要性を強調しました。そしてユースたちが団体や協議会を設立し、時代を超えてつながりながら共に活動する意義を支持していると述べました。

JAWWは、2024年9月に「JAWW NGOレポート-北京+30に向けて」のレポートを発行しました。鴨澤氏は、このレポートはユースがCSWについて学ぶ良い資料となると思っており、ぜひ役立ててほしいと述べていました。

最後に、男女が共に支え合い、成長し合うコミュニティの実現を願い、当協議会への応援の言葉で締めくくっています。

CSWの概要

1,国連機関内におけるCSWの位置付けと役割

国連の6つの主要機関の一つである経済社会理事会（ECOSOC）は、工業化、経済問題、人口、子ども、住宅、女性の権利、人種差別など幅広いの社会問題を取り扱い、加盟国に勧告を行っています。そして、ECOSOCには特定の課題に関する勧告・報告・提案等を行う8つの機能委員会が設置されており、その中の一つに、1946年に設置された女性の地位委員会（以下「CSW」と称す）があります。

CSWは、2011年からUN Womenが事務局となり運営しています。合わせて、NGO CSW/NYと呼ばれる組織が、CSW期間中に世界中のNGOが主催するパラレルイベントの調整を行い、世界中のNGOがCSWで話し合いに参加する機会を提供する重要な役割を担っています。

CSWは、グローバル政策機関として女性の権利に関する課題を扱い、ジェンダー平等に向けた取り組みを行っています。CSWの期間内に会議の成果として年次会合で討議した結果は、合意結論（agreed conclusion）という形でまとめ、ECOSOCへ会合の最終日に提出します。更にECOSOCはCSWでの合意文書を受けて、国連の最高議決機関である国連総会（第3委員会）に勧告を行います。

2,CSW開催期間中の取り組み

CSWの参加者は、加盟国代表、国連諸機関、ECOSOCの協議資格のあるNGO等です。CSW開催中には、複数の会合やイベントが同時に行われます。会合によっては、市民社会（NGOなどの団体）も参加可能なため、国連諸機関の関係者、政府の関係者らからお話を伺ったり、質問をしたり、（当事者の視点から）意見を直接伝える機会があります。

本会議：国連加盟国代表、市民団体などの代表などが参加

- ・ 優先テーマに沿った会合：一般討論、閣僚級円卓会合など
- ・ レビューテーマに沿った会合：
過去のCSWの議題をレビューテーマとして取りあげ、進捗状況をはかる

本会議以外：研究機関、国連機関、NGOなどが主催・参加

- ・ サイドイベント※：優先テーマに沿った会合。各国政府・国連機関とNGOの共催
- ・ パラレルイベント：優先テーマに関係なく、NGOの主催で行われる

3,CSW68について

CSW68は、2024年3月11日～22日の日程で対面とオンラインのハイブリッドで開催されました。CSW68の優先テーマは「ジェンダーの視点からの貧困撲滅、機構強化、資金動員によるジェンダー平等達成と女性・女児のエンパワーメントの加速（政府訳）」でした。また、レビューテーマは、「ジェンダー平等及び女性と女児のエンパワーメントのための社会保護システム、公共サービス及び持続可能なインフラストラクチャーへのアクセス(CSW63合意結論)」でした。

※ CSW68において、国際連合日本政府代表部と以下のNGO3団体（国連NGO国内女性委員会/JAWW（日本女性監視機構）／国際婦人年連絡会）が行なったサイドイベントに関しては、JAWW(日本女性監視機構)のHPより「CSW68サイドイベント報告書」が公開されています。（<https://jaww.info/doc/csw68-side-event-report.pdf>）をご参照ください。

CSWの概要

4,参考資料

- JAWW（日本女性監視機構）のHP「CSWについて」のページ
<https://jaww.info/aboutcsw.html>（最終閲覧日 2024年11月24日）。
- NGO CSW/NY のHP「ABOUT US」のページ
<https://ngocsw.org/about-us/>（最終閲覧日 2025年1月13日）。
- UN WomenのHP「Commitment on the Status of Women」のページ
<https://www.unwomen.org/en/how-we-work/commission-on-the-status-of-women>
（最終閲覧日 2024年11月24日）。
- 国立女性会館リポジトリ『第68回国連女性の地位委員会（CSW）早わかり』
<https://nwec.repo.nii.ac.jp/records/2000139>（最終閲覧日 2025年1月13日）。

ユース報告の要約

CSW68ユース報告会にて、当協議会メンバーが派遣された団体より1名ずつ報告を行いました。報告者は以下の5名です。

- 1.横山 浩花（一般社団法人 大学女性協会）
- 2.片桐 碧海（公益財団法人 日本YWCA）
- 3.木村 緒実（国連NGO国内女性委員会）
- 4.山内 彩（JAWW（日本女性監視機構））
- 5.鈴木 りゆか（日本BPW連合会/ CSW68日本政府代表団ユース代表）

発表1 「私たちも社会を変える？—市民社会とNGOの重要性を再認識して—」

派遣団体：一般社団法人 大学女性協会
発表者：横山 浩花

CSW68に参加し、特に印象に残ったイベントとして、フランスのジェンダー平等推進を目的とするNGOとフランス家族計画協会が共催で行なったパラレルイベントをあげたいと思います。2024年3月4日、フランス議会は憲法改正案を可決し、世界で初めて憲法に女性が人工妊娠中絶を選ぶ自由を明記しました。これにより、フランスでは中絶権/リプロダクティブライツ（生殖の権利）が正式に保障されることとなりました。この歴史的な進展の直後で開催された今回のイベントでは、人工妊娠中絶の自由を憲法に明記するに至るまでのNGOや関係団体の連携について、ムーブメントの中心人物たちが報告を行いました。

このイベントを通じて、特に印象的だった学びを3点あげます。1点目は、日本とフランスにおける社会問題への関心や取り組み方の違いです。イベントの報告者から、フランスでは、「国家に訴えかけながらも、自分たち自身も行動し続けなければならない」という強い意識があることが共通されました。つまり、国家と市民社会の両者が協力し合うことが重要であり、政策変革には市民の継続的な働きかけが不可欠であるということでした。

2点目は、フランスの市民社会が長年にわたり声をあげ続けていきた背景があったことです。今回のムーブメントは約1年半前から本格的に取り組まれていましたが、フランスにおける人工妊娠中絶の自由を求める声は1971年からあげられていたそうです（更に1975年に初めて中絶権が法律で認められます）。つまり、フランスでは問題が顕在化した時だけではなく、それ以前から常に声をあげ続け、活動を続けていた人々がいたということでした。そこで、こうした継続的な取り組みと、団体を越えた結束の重要性を改めて認識しました。

3点目は、社会運動を行う上で重要な視点とNGOの役割についてです。イベントの報告者が所属する団体では、社会問題の解決や社会運動の障壁となる要因について、「異なる事例のように見えても根底ではどこかで繋がっている」と考えられていました。そして、その団体は同じ課題に取り組む組織だけでなく、異なる分野の団体とも協力して活動していることを強調しました。

ユース報告の要約

その上で、このイベントの報告者が所属する団体は、今回の運動のトリガー及び中心的な役割を担い、国会議員から女性の身体の権利についてあまり興味を持っていないような一般市民（フリーライダー）に至るまで幅広い層を巻き込み、更には、運動をより強固なものとするために、他の関連組織、研究者、法律家、国際的な団体などとのコネクション役を担い、ネットワークを構築していました。これにより、今回のような、大規模なムーブメントを成功させ、女性の権利に関する歴史的な進展を成し遂げました。

最後に、CSW68の全体を通した所感を述べたいと思います。CSW68に参加する前と後では、社会問題の解決に向けた活動や意見の発信に対する自分の考え方が大きく変わりました。私が暮らす岡山県は、大都市と比べてジェンダーに関する議論や情報交換の場が少なく、声をあげる人も少ないように感じていました。そのため、私自身もジェンダー平等の実現に向けて声をあげることに少し躊躇いを感じていました。しかし、今回CSW68に参加をし、市民社会が声をあげ、行動を起こすことで憲法や政策決定機関に影響を与えることができることを実感しました。そして、実際にその力を証明し続けているアクティビストたちと出会ったことで、声をあげなければ何も変えられないことを痛感しました。また、世界には同じ志を持つ多くの仲間がいることを知り、大変勇気づけられました。これからは、私もリーダーシップを持ち、岡山から積極的に発信や活動を行っていきたいと思います。また、今後は恐れることなく、国内外の仲間たちと協力しながら、より多くの人々が生きやすい社会の実現に向けて行動していきたいと思います。

ユース報告の要約

発表2「たくさんの仲間にもまれて—YWCAコミュニティーの経験—」

派遣団体：公益財団法人 日本YWCA

発表者：片桐 碧海

私が所属するYWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。1855年英国で始まり、今では日本を含む100以上の国・地域で活動しています。CSW68に参加したユース団体の中で特徴的なこととして、他国・地域のYWCAシスターズと交流する機会が多く、彼女たちのパラレルイベントに参加したり、日本YWCAが主催したパラレルイベントにたくさんのシスターズが参加してくれたりしたことがあげられます。日本YWCAでは、CSW67に引き続き、CSW68でも現地NYにて90分間のパラレルイベントを主催しました。“The life stories of disempowered young women: hardship and leadership in Japan”（日本の若い女性が抱える生きづらさを考える）をテーマに、ユース7名がエピソードや考え、アクションについて発表しました。具体的には、生理の貧困、災害と女性の立場、性コンテンツと「女性らしさ」、家族のかたちと性の役割分担、女性研究者、司法関連職、「マイクロアグレッション」とリーダーシップを取りあげました。全5回におよぶオンラインミーティングで何度もブラッシュアップし、リハーサル、国内に向けた日本語でのイベント開催を経て、CSW68当日を迎えました。双方向性のイベントにしたい！という思いから、発表は40分に収め、残りの50分間は参加者も含めて5つのグループに分かれ、それぞれのテーマで参加者と意見交換を行いました。当日は約30名程度が参加してくださり、各グループ5-6名でしたが、私のグループは、参加者が全員YWCAシスターズでした。アメリカ、ウクライナ、韓国、ナイジェリア、フィンランドのシスターズが参加してくれて、それぞれの国における家族のかたちや自分の経験について語り合っすることができました。初めて会う人たちでしたが、グループトークは終始とてもアットホームな雰囲気、とても温かい気持ちになりました。イベント後のアンケートでは、イベントを通して好評価をいただき、とても嬉しく思いました。イベントおよび日本YWCAユースメンバーのCSW68経験について、詳しくは日本YWCAのホームページに報告書の全文（全70ページ）を公開しています

(<https://www.ywca.or.jp/news/humanrights/gender/20240605-csw-report/>)。ぜひご覧ください。

ユース報告の要約

発表3「行動することの大切さ—日本から出たことで得られた新たな視点—」

派遣団体：国連NGO国内女性委員会
発表者：木村 緒実

CSW68において、私の参加したパラレルイベントのうち1つをご紹介させていただきたいと思います。テーマはClimate Disasters, Escalating Poverty and Disability-Feminists Responseで、気候災害、貧困と障害の拡大、フェミニストの対応です。SMRCが主催となり、南アジア障がい者女性機構ネットワーク、インド障がい者女性ネットワークが参加している南アジア圏のイベントでした。このイベントでは気候変動、ジェンダー、障害に精通した専門家によるパネルディスカッションを行っており、気候とジェンダーと障害者の権利に焦点を当てています。湾岸浸食、黄砂、乾燥地帯への移住などの影響を気候変動によって影響を受けている女性たちを取りあげ、気候がその女性たちの健康や生計に与える影響を強調し、直面するリスクと貧困の拡大を、事例を取りあげながら強調していました。このイベントでは専門家が多く参加されていて、そこには若い活動家や学者も混ざってディスカッションを行っているのが印象的でした。若い方視点の意見も専門家らは真剣に聞いていて、若い意見も取り入れた柔軟なディスカッションの重要性を感じました。また、多くのオンラインイベントは文字起こしによる聴覚障がい者への支援を行っていましたが、このイベントでは手話を用いており、聴覚障がい者の方のリアルタイムでの参加が大変新鮮に感じたイベントでもありました。

このイベントを含むCSW全体を通して、障害、気候変動、いじめ、貧困、ハラスメントなどといった問題は多くありますが、女性ということがこれら問題に多くの交差性をもって来るのだということを知りました。そのため、問題を別個のカテゴリーとしてとらえるのではなく、相互に関係しているものであるという認識をすることで、広く相補的な関係であるということがみえてくるのではないかと考えられました。これが今回参加して特に得られた学びであったと感じています。また、今回参加して得た学びとして、以下3つがあげられます。

1つ目は多角的な視点を得ることです。一つの分野のみをみて知ったつもりになるのではなく、多方面からみることでそれらの相補的な関係性や連続性がみえてくるのが分かりました。過去や今だけではなく、このままいくと将来どう進んでいくのか、どのようになっていくと良いかなど、時間軸でも多角的な見方ができるとより良いのではないかと感じます。2つ目は他国の出来事だからと言って他人事ではないということです。戦争や紛争だけではなく、世界の女性に関する問題は、自分の国で怒っていなくても影響は計り知れないし、自分もいつ何時、何が起こるかわかりません。現に能登の大地震では女性の生理用品の問題が出たり、大雨による災害が各地で起こっていることなど、気候変動に関して日本は他人事とは言えません。特にCSW68の優先テーマでは女性の貧困がテーマであり、日本の相対的貧困率は高い現状にあります。今後どうなっていくか、どう行動するのが良いのか、そのためにも世界の情報は常にキャッチしていけるとよいと思いました。

ユース報告の要約

3つ目は怖がらずに自分からどんどん参加していくことです。今回自分からNYに行きたいと声をあげなければ参加することもなかったと思います。わからなければ調べたり他の人に聞けばよいと学び、行動することへの恐れが少なくなったと思います。特にユースとして派遣させていただいたおかげで、普段生活している上では経験できないような、国連代表本部でのブリーフィングへの参加やイベントへの参加などさせていただきました。失敗することを恐れて行動を見送ることもだめではないですが、行動することで得られるメリットも多くあるのだと気付かされ、現在私が参加しているその他活動にも生きています。

ユース報告の要約

発表4「小さな空間から世界を知る—CSWから学んだこと、見落とししていたこと」

派遣団体：JAWW（日本女性監視機構）

発表者：山内 彩

2021年に開催されたNGOCSW65にて、以前から携わっていたデートDVおよび性暴力に関するプロジェクトについて登壇者として発信し、多くの反響を得た経験から、CSW68に参加しました。

ラトビアのサイドイベントでは首相の発言を通じて貧困が女性の安全を脅かす要因であることを学び、UNESCAPのイベントでは農村女性が直面する暴力の現実が共有されました。また、他国の現状を知る中で、女性の社会進出にまつわる日本の現状も振り返るきっかけとなりました。更に、子供の保護・支援への興味から、家庭内暴力を受けた子どものケアに関する国際イベントにも出席しました。

会期を通してジェンダー平等の推進において、ヨーロッパは日本と似た課題を抱えていることに気づき、連帯感を感じました。また、トルコでの父親向け育児教育の取り組みに驚き、加害者支援プログラムの国境を超えた重要性を実感しました。UN Womenの代表理事が登壇したイベントでは、SNSの誹謗中傷やデジタル社会のミソジニーへの取り組みが強調され、感銘を受けました。こうした体験を通じて、海外の人々が声をあげ、連帯意識を形成する能力の高さに気づきました。CSWの参加者達は常に能動的で、希望と熱意に満ちた姿が印象的でした。

ユース報告の要約

発表5「『人権』の観点からジェンダー平等を語る」

派遣団体：日本BPW連合会
発表者：鈴木 りゆか

ユース報告のパートでは、CSW68の開会式に登壇された方々のステートメントの内容と、自身が日本政府代表団のユース代表として参加した「ユース代表インタラクティブ・ダイアログ」のご報告をしました。

前者に関しては、具体的に事務総長のアントニオ・グテーレス氏、UN Womenの事務局長のシマ・サミ・バフース氏、マラウイのユース代表のステイシー氏、ウガンダのデリゲートの方のご発言をご紹介しました。グテーレス氏は「国連のシニアマネジメントのレベルにおいて、歴史上初めての完全なパリテ（男女同数・平等50%）が実現した」「国連機関がパリテを実現できるのであれば、各国の政府も実現可能である」と主張し、国連加盟国の政策立案者らに意思決定の場におけるジェンダー平等の重要性を訴えました。バフース氏は、「ジェンダー平等に関する取り組みは常に優先事項である」「フェミニズムにおける草の根レベルでの活動が重要である」と主張しました。ジェンダーにかかる課題が個々人の人権に直結すること、また一部のエリート層のみならず、地域社会を巻き込んだ活動を展開することの必要性をすべての参加者に訴えました。ステイシー氏は、「経済、政治、社会、健康に関わる重要な意思決定がなされる場に若者が不在である」「包括的な意思決定の実現を目指して声をあげることが重要である」を訴えました。「女性」の経験を一括りにするのではなく、インターセクショナルリティ（交差性）の観点を以て物事をみること、また声をあげることの重要性を再認識させてくれるとても貴重なご発言でした。ウガンダのデリゲートの方は、「植民地主義に基づく歴史的な不当の扱いは、特にグローバルサウスにおける女性や少女が直面する貧困や周縁化、排斥、経済格差、不安定な状況などの問題に影響をもたらしている」と主張しました。西洋中心主義の手法に疑問を呈し、脱植民地主義的な「開発」を導入していくことの重要性を説明する非常にパワフルなご発言でした。「ドナー国（支援する側）」と「被支援国（支援される側）」との間でパワーバランスが生じてしまう構造的な課題がある中で、「植民地主義」という表現を以て、思いの丈を話されたウガンダのデリゲートの方には心を打たれました。特に、グローバルノウスに生きる特権的な立場で生きる人びとこそ、その言葉が表す意味とその重みをきちんと受け止めていく必要があると思いました。

次いで、「ユース代表インタラクティブ・ダイアログ」についての報告パートでは、同ダイアログの概要と自身のステートメントの内容を紹介しました。前提として、同ダイアログはCSW67（2023年度）に初めて国連女性のCSWの公式会合として認められたものです。CSW68は、2024年3月14日（木）15:00～18:00（東部夏時間EDT）に開催され、優先テーマ「ジェンダーの視点からの貧困撲滅、機構強化、資金動員によるジェンダー平等達成と女性・女児のエンパワーメントの加速（政府訳）」に基づいてディスカッションが行われました。同ダイアログの開催目的は、「貧困課題への取り組みにおけるユースの役割について検討し、各々の経験や知見、教訓、グッド・プラクティスについて共有し合うことで、ジェンダーの視点に基づく機構づくりや資金調達強化に繋げること」とされています。

ユース報告の要約

具体的な内容としては、国連加盟国のユースが任意で集い、前半に代表のユース5名によるパネルディスカッションが行われ、後半に各国のユース代表を含む形でオープンディスカッションが実施されました。オープンディスカッションでの発言を希望する場合は、各席に設置されている指定のマイクのボタンを押し、議長に発言の意思表示をする必要がありました。議長より自国の国名が呼ばれた者には3分間のステートメントを残す権限が付与される仕組みでした。私自身も発言の意思表示をし、同ダイアログにてステートメントを発表する機会をいただきました。ステートメントの中では、日本や世界各国の政治分野におけるジェンダー不平等への指摘をした上で、「代表」を単なる形式的なリーダーではなく「(ポジティブな)変化の促進要因」として捉え直すことが必要であると主張しました。具体的に、マイノリティの属性を持つ人びと(ビザの発給拒否、紛争、経済的困難、障がい、ケア労働への従事などによって意思決定の場から排除されている人びと)が、本来であれば「変化の担い手」として「当事者目線」で、政策立案過程の携わるべき主体であると訴えました。社会の中で周縁化されている人たちが指導的地位に就くことができる環境を構築するために、持続的な経済的支援策を講じる必要があります。経済的援助がマイノリティ層の挑戦を妨げる障壁の除去し、更には彼女たちをエンパワーメントすることに繋がるのではないかと聴衆に呼びかけました。

自身の報告の後半のパートでは、政治的イデオロギーにかかわらず、「人権」の観点より、ジェンダー平等政策を常に優先事項として推し進める必要があると訴えました。また、具体的なアクションとして、日本においては被選挙権年齢の引き下げや法律型のジェンダー・クォータ制の導入が必要であると主張しました。加えて、CSWにおけるユース派遣という文脈においては、経済的状況にかかわらず様々な属性をもつ若年層の参加を促すために、少なくともユース代表向けの経済的援助が必要であると訴えました。報告会には、政府関係者もご参加いただいていたこともあり、自身の報告パートでは、意識的にアドボカシー要素を強くしました。これからも自分や大切な人の人権や尊厳がきちんと尊重される社会の実現のために、声をあげ続けていきたいです。そのために、属性や立場にかかわらず、様々なステークホルダーと手を取り合いながら、日本のジェンダー平等を私たちの手で確かなものにしていきたいです。

※CSW68「ユース代表インタラクティブ・ダイアログ」にて発表したスピーチ原稿、日本語訳、聴衆からのリアクションにかかる報告については、以下のリンク先の報告書にてご確認ください。

<https://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/ikenkoukan/86/pdf/2-3.pdf>

(当該報告書は、2024年9月25日(水)13:00~15:00にて実施された内閣府男女共同参画局主催の「第68回国連女性の地位委員会(CSW)等について聞く会」の後に提出した資料の一つとなります)

代表団員のコメントの要約

古本 建彦氏（外務省総合外交政策局女性参画推進室長）

外務省総合外交政策局女性参画推進室長の古本建彦氏は、国連女性の地位委員会（CSW）への参加経験をもとに、市民社会とユースの役割についてコメントしました。古本氏は、2017年から2020年にかけて国連日本政府代表部社会部の参事官として人権問題を扱い、近年は女性参画推進室長としてCSWに参加してきたことから、ジェンダーや人権に関する国際的議論において、市民社会の役割の重要性を強調しました。特にG7やG20などの国際交渉において、ジェンダーやマイノリティの問題がいかに大きな議題となっているかを説明しました。

また、未来世代を見据えた国際的な議論について触れ、2024年9月に開催された「未来サミット（Summit of the Future）」がユースに焦点を当てた重要な会議であったことを強調しました。首脳会議で採択された成果文書には、ユースや次世代に関する記述が多く盛り込まれており、日本もジェンダー分野を牽引する次世代の育成プログラムを立ち上げる意向を表明しています。外務省としても、ユースとの連携を強化し、次世代が様々な取り組みをリードできるよう支援していく方針を述べました。

古本氏は、今後の取り組みに向けた準備はまだ進行中であるものの、実効的な施策を検討していく必要性を強調し、引き続きユースや市民社会との連携を深めていきたいと締めくくりました。

質問と回答

報告会の申し込み、報告会中、報告会後のアンケートにていただいた質問・コメントとその回答については、以下の通りです。

・事前準備・帰国後、派遣に関して

質問1

より有意義な経験とするために、事前準備として何をしておくべきかを（何を知り、学んでおくか等）、皆さまの体験に基づいてアドバイスしてもらえると良いと思います。

回答

日本からのユースとして派遣されるため、他の国・地域からのCSW参加者からは、ジェンダー課題にかかる日本の現状について聞かれることが多々ありました。そのため、CSW参加前に国連内で議論されているトレンドのトピックを把握した上で、そのトピックに関連する日本の事例を事前に調べて自分の言葉で話せるようにしておくことをお勧めします。そうすることで、他の国や地域からの参加者とより深みのある議論が展開できると思います。

質問2

20-30代に対してCSWで決められた提言や条約に対して、どのようにして噛み砕いて伝えたり、関心を持つようにしたりしているのでしょうか。

回答

日本でのジェンダーにかかる具体的な事例などに関連づけて考えることで、CSWで決められた提言や条約への関心や理解を深めるようにしています。また、CSWが身近でない人に対しては、日本に住む多くの人にとって認識しやすいと考えられるジェンダー課題（「男らしさ・女らしさ」の言説／性別役割分業／性的同意／選択的夫婦別姓など）の例をあげた上で、CSWの決議内容について伝えるようにしています。

質問3

イベント内でも質問させていただきましたが、参加していた各国のユースの性別や属性の多様性、また各国のユースの選考の方法について何か気づいたことや他国のユースに聞いたことなどがあればお聞きしたいです。

回答

各国のユースの性別や属性の多様性、一般のユース参加者の選考方法に関しては、国や派遣団体によっても大きく異なると思いますので、当方からは説明いたしかねます。他国の政府代表団のユース代表の選考方法につきましては、以下のリンク先の「Future Agents NOW」*という団体がまとめた報告書「Global Youth Voices」よりご確認ください。同報告書の14～15頁に他国の事例が掲載されています。

https://duf.dk/fileadmin/user_upload/Editor/images/DUFs_arbejde/Future_Agents_NOW/Global_Youth_Voices_Report.pdf?fbclid=IwAR3DuqVgrCoCcMjAp1PeXtbx0BvJ-DK80IkCemBs_xkcXe-ifL7yl1tNmAY

* 「Future Agents NOW」とは、デンマークの「Danish Youth Council」、フィンランドの「The Finnish National Youth Council Allianssi」、エストニアの「Estonian National Youth Council」の3団体によって運営される団体です。また欧州連合（EU）が共同設立者です。

質問と回答

• CSW派遣方法について

質問4

それぞれ各NGOでのご活躍後に、CSWの派遣が決定する形なのでしょうか？/応募に当たって、必要な条件としてどのようなものがあるのでしょうか。また事前にどのような知識をもってCSWに参加するのがいいのでしょうか？

回答1 (一社) 大学女性協会の派遣者より

学生の場合、本協会では正会員になることができませんので、NGOで事前に何か活動することはありません。HPの募集要項より応募し、派遣者が決定した後、CSW派遣に向けた事前の勉強会やミーティングがあります。募集要項（応募条件）は以下の通りです（JAUWのHP「2024年度国連女性の地位委員会（CSW69）若手派遣支援のお知らせ」より一部引用）。

- 1) 支援対象者は、学業・人物共に優れた大学生、もしくは大学卒の女性で、国際会議に参加する者、若干名とする。
- 2) 応募者は、申請に当たり、指導教員・JAUW 理事・JAUW 支部長のいずれかの推薦を必要とする。応募者は、所定の申請書（ホームページよりダウンロード）と小論文（日本語）を提出すること（郵送可）。渡航予定日の3ヶ月前までに応募者宛に通知する。
- 3) JAUW 等で主催する事前研修会/会合に出席し、会議終了後、報告会で報告し、3か月以内に成果報告書を本協会に提出しなければならない。

※詳しくは以下のリンクから募集要項をご確認ください。

<https://www.jauw.org/activity/2024csw69entry/>

回答2 日本BPW連合会の派遣者より

CSWインターン応募以前にBPWでの活動経験は必要とされませんでした。

募集対象（応募条件）は以下の通りでした：

• 募集対象

- 1) 国際問題、女性問題、国連に関心を持つ20歳～35歳の女性
- 2) パラレル・イベントの企画・運営、事前勉強会への参加、関係各所への表敬訪問、ニューヨークでは日本政府国連代表部のブリーフィングへの参加など、インターン活動を優先していただける方
- 3) 帰国後は、報告書（日・英両言語で、活動写真含）を作成し日本BPW連合会に提出いただく他、BPWが企画するイベント（報告会・NWECインターン報告・各地のBPW活動）などに参加いただける方

※詳細は以下のリンク先のウェブページよりご確認ください。

<https://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html>

また、派遣者決定後にCSW派遣に向けた事前勉強会等への参加が求められます。

質問と回答

回答3 JAWW（日本女性監視機構）の派遣者より

ユースレポーターの応募がCSW前に開始され、書類選考、面接を通じて選出されます。

ユースレポーターに決定後、会員として登録されます。

回答4 公益財団法人 日本YWCAの派遣者より

YWCAで事前に活動してからでないと参加ができないということはありませんでした。YWCAからの派遣者のほとんどがCSWをきっかけにYWCAに所属しています。応募の条件として派遣後の2年間はYWCAの活動に継続して関わる意思があること、新規会員の場合は派遣前にYWCAの活動に参加すること、事前の準備会（月に一回程度）に参加が可能なこと、後方への協力ができることなどがありました。私は新規会員だったので、所属YWCAの方に推薦をお願いしました！

また、YWCAで派遣が決定した後に事前の勉強会への参加などがありました。

回答5 国連NGO国内女性委員会の派遣者より

NGOで事前に活動してからでないと参加ができないということはありませんでした。派遣していただけたらとなった後に、事前の勉強会への参加などがありました。

選出方法に関しては、今回初めての学生インターン派遣だったということもあり、当団体の役員であり所属していたゼミナールの教授であった教授の推薦をいただいて参加させていただけることになりました。今後も学生インターンを派遣するかどうかは不明です。

質問5

かかった参加費の総額について。

回答

CSW68の参加ユースより18日間の滞在で60万円前後の出費（1日に約3万3～4千円の出費）があったとの報告があります（使途：航空運賃、宿泊費、生活費、交通費など）。

・周知・関心に関するもの

質問6

もっと多くの方に感心を持っていただいたり、参加を促すためにはどのようなことが可能か、ご提案頂きたいです。

回答

日本でのCSWの認知度が低いことはさることながら、日本のジェンダー関連の団体がCSWに毎年ユースを派遣しているという事実もあまり知られていないように思います。各団体の制約等もあるかとは思いますが、例えば、全国の高等教育機関のジェンダー関連の研究センターなどにユース派遣の広報ができればより多くの方に感心を持っていただけるのではないかと思います。

質問と回答

質問7

これから社会に出る高等学校の女子生徒に向けて講演会などしていただくことはできますか？

回答（報告会内にて）

様々なところからユースメンバーが報告を依頼される、もしくはCSWは認知度が低く、ユースが自ら動いて報告会をしているのが現状です。ぜひご依頼いただきお話できる機会をいただけると大変ありがたいです。

質問8

ユースセンター等を通じてもっと身近なところで報告なされる機会がありますか？地元の若い世代への周知から始めたいと思っておりますが、中々その方法がみつかりません。

回答

ユースセンターを通じて報告する機会はありませんでしたが、今回の報告会をはじめとし、CSW68の派遣者自らが報告の場を設けられるように努めています。また派遣されたメンバーによっては、所属団体を通じて報告した者や大学の授業内でプレゼンをした者はいます。周知については報告書が各団体から発行されていることも多いので、それをご覧になっていただくとCSWの様子がよくわかると思います。また派遣者によっては新聞等の記事で取りあげられている者もいるので、その記事をご提示いただくのも周知の方法として有効であると考えます。

質問9

CSW69に派遣されることが決まった若手とそのタイミングで、交流会をもつ機会をつくっていただくことは可能ですか？

回答

可能です。CSW日本ユース協議会 (japaneseyouthcouncil.csw@gmail.com) にご連絡ください。

CSW68に関するユースの感想

以下に、いただいた質問に関するユースメンバーによる感想を記載しています。

今回得られた体験を今後どのように活かしていくか、また、CSWへの参加がその後の自分に活かされているかについて。

ユースの感想（報告会内にて）

CSW68やニューヨークで日本ユース協議会のユースたちと交流する中で、岡山は東京などの都会と比べるとまだまだジェンダーやフェミニズムについてユースが話し合う機会や場所が少ないのではないかということに認識し、考える機会となりました。よって、もし私のように怖くて発信・行動できない人、ジェンダー平等な社会を目指しているけどどのように行動を起こせば良いのか分からない人がいるなら、一緒に頑張って発信できたらいいなと思い、そのようなことができる場所を岡山でこれから作っていきたくて思いました。そして早速、帰国後に岡山県で活動を行っている方と繋がることができ、一緒にイベントに参加させていただきました。何か団体を作るといった形にみえるところまでの実現に至っていませんが、できるところから行動を起こしていけたらいいなと思って活動しています。

CSW68直後と、半年経った今とで何か変化があるか。また、CSW68のサイドイベントやパラレルイベントに参加して、新しい発見があったかについて。

ユースの感想

CSW68直後と半年経っての変化としては、いい意味で自分のペースでジェンダー課題と向き合うようになりました。CSW68直後は、現地で体験した参加者のジェンダー課題に取り組む熱量に感化され、四六時中なにか行動を起こしたいと奮起していました。しかし今は無理のない範囲でのジェンダー課題への関心と行動が学び続ける持続性を持たせてくれています。サイドイベント・パラレルイベントに参加しての新たな発見としては、CSWの場と日本とでの議論の進め方の違いに驚きました。例えば、女性の経済的自立の遅れを議論する際、これまでの経験上国内では「なぜ女性の経済的自立が難しいのか」に注目されますが、CSW68では「女性の経済的自立が損なわれるのは人権問題であり社会が抱える大きな課題」と認識した上で「如何に当事者以外を巻き込んで経済的自立を獲得するか」が盛んに議論されていました。原因の追求よりも課題の解決を議論することに熱中するこの空間は、日本では味わえない独特の力強さと多少強引にでも前進しジェンダー平等を達成したいという一人一人の意志の強さを垣間みました。

CSW68に関するユースの感想

CSWへの参加を通して、ご自身が持っていた課題感がどのように変化したのか。またはまた変化しなかったのかについて。

ユースの感想

日本で普段生活していると、ジェンダー不平等の格差の問題を解決するために活動家や専門家が活発に動いていたり、ジェンダーの課題を解決するために予算は限られているようにみえていました。CSWに参加し実際、他の国では、資金援助や政策など、社会を変えるための取り組みが先鋭的に進んでおり、日本が学び、取り入れていくべき観点はたくさんあることを改めて実感しました。また、ジェンダー、ユースの課題について、当事者が決定することの重要性を訴える他国ユースが多いことに驚きました。日本や自身の身近では、自己の学びや交友関係の中にとどまった意志表明が中心で、政府への働きかけまで見据えた動きはまだあまりみられないため、このような動きを作っていくことが今後の課題だと思いました。

CSWの期間で特に印象的だった出来事について。

ユースの感想

意見が分かれる議論について、双方の意見を聞き、仲間とディスカッションに参加する経験ができたことが印象的でした。具体的には、イスラエル軍によるガザ地区侵攻と、慰安婦問題についてです。日本では、政治的な事象について意見を持ったり、表明したりすることはあまり一般的ではないように思います。また、テレビなどのメディアの情報を自分なりに調べて批判的に吟味することも少ないと思います。今回異なる立場の人からの話を聞くことでこれまでの自分の考え方が大きく変わりました。そして、国連の前でサイレントデモにはじめて参加しました。当初は、「参加して大丈夫かな」と不安に思う気持ちもありました。今では、勇気を出して挑戦して良かったと思います。そして、平和的手段で訴える人の安全が守られる世界を実現しなくてはならないと強く思いました。

他国のユースとの交流からの学びについてや、ユースへの支援などの印象的な取り組みなどあったかについて。

ユースの感想

私が、CSW68を通して出会ったコミュニティを紹介します。Community Care Collective(CCC)という団体で、CSWに参加したユースたちが2年前に立ち上げ、自主的にセーフスペースを作る活動を行っています。このコミュニティの設立背景には、CSWの場ではユースたちが本音で語り合う場がない、セーフスペースがないという問題意識がきっかけでした。このコミュニティの中では、国家レベルの政策から母国内の小さな政策についてなど、実際に参加して様々な話し合いをすることができました。また、CSWをきっかけに団体が作られていたところも興味深いと思いました。CCCのリンク (<https://www.globalcommunitycarecollective.com/>)

CSW68に関するユースの感想

遠隔からの参加と現地での参加の違いについて。

ユースの感想

日本からオンラインでCSWに参加した経験はないですが、いくつかのサイドイベントやパラレルイベントは現地にながらオンラインで参加したものもあるため、そこでの経験を共有します。

私が参加した対面でのイベントの多くで、会場全体の熱量を肌で感じることができたり、イベント中や終了後に連絡先を交換するなど交流することができ、より高いモチベーションを持ってCSW68に参加することができたように感じます。ただ、私が参加したオンライン上でのイベントの中には、一方的にスピーカーが話すだけでなく、ZoomのQ&A機能の利用やブレイクアウトルームを設定するなどして、できるだけ参加者がインタラクティブに参加できる工夫がなされていたものもありました。オンラインではありましたが、対面のものと同じくらい意見交換などでき、充実した時間でした。

これらの経験より、確かに対面とオンラインで異なる体験をしました。しかし、満足度については、対面のイベントの方が満足できるもので、オンラインでのイベントの方は議論や交流が不十分だから劣っているというような参加方法に起因してそのイベントの良さが決まるのではなく、イベント主催者の取り組み方や工夫、参加者の人数、規模などによって充実したイベントになるかどうかが決まるのではないかと感じました。今後CSWに現地参加できるかは分かりませんが、現地参加にこだわらなくても、日本よりオンラインで参加することで情報を獲得したり、他国の参加者と交流したりしていきたいと考えています。

ユース派遣に関する男性の参加について。

ユースの感想

各団体の方針に委ねられ、一ユースに答えられるものではないと存じております。しかしながら、誤解を恐れずに申しあげるのであれば、CSWはジェンダー平等の達成と女性と女児のエンパワーメントが主要議題です。確かにどんな性別にも関係なく参加する機会があることは大変重要なことではありますが、現在日本のジェンダーギャップ指数が世界的にも低い順位にいることも鑑みて、まず女性の地位向上のために、女性が世界の動きからエンパワーを受けて体験するということが意味があると考えております。また、現在はオンラインで行われているイベントも多くあり、パラレルイベントにおいてはいずれの団体にも所属していない男性の参加も見受けられました。いずれにせよ、今後もCSWの認知を高めていくことがジェンダー平等のための議論を進めることの一步になるのではないかと考えられます。もし属性に関わらずNGOの派遣を受けてCSWに行きたい方がいらっしゃるとしたら、ご相談に乗らせていただいたくことはできるかと思えます。

報告会の準備に関して

報告会に向けての準備会について

CSW68報告会の実施に向けて、2024年4月から9回のミーティングを行いました。

第1回 2024年4月21日

議題

- ・ 派遣団体による報告会実施や報告書完成時期について情報交換
- ・ CSW日本ユース協議会による報告会の企画開始
- ・ 実施の目的や参加者層、報告会構成素案の検討

決定事項

- ・ CSW68報告会の目標として以下2つを仮決定とし、第1回ミーティングへの参加が叶わなかったメンバーにも意見を募り、次回ミーティングで最終決定することになりました。
- 1. 派遣団体の会員でない大学生、ジェンダーに関心のある方、若者のCSWの認知度を高める
- 2. CSW69に参加したいユースがCSWについて具体的にイメージできる機会とする

第2回 2024年6月13日

議題

- ・ CSW68報告会の目標、参加者層、今後の準備スケジュールの検討

決定事項

- ・ 目標は第1回ミーティングで検討した通りとしました。
- ・ 目標を踏まえ、主な参加者層は、ジェンダーや国際機関でのキャリアに関心のある派遣団体の会員ではないユース、大学生と決めました。加えて、外務省のCSW担当者も招待し、CSWにおける日本のユースの活動の認知度向上を目指すこととしました。
- ・ スケジュールに関しては、派遣団体の例年の参加者募集が9月末～10月末であることを踏まえ、8月または9月に報告会を実施することとしました。（その後、調整の結果9月29日に決定）

第3回 2024年7月23日

議題

- ・ 来賓の選定
- ・ 報告会の構成検討

決定事項

- ・ 来賓は、CSW68参加前後から政府担当者に関わってきたパイプをより強くするため、外務省、内閣府男女共同参画局、CSW68派遣メンバーが関係のある議員としました。
- ・ 構成は、CSW68参加者による実体験の報告をメインとし、CSWを初めて知る参加者向けのCSW概要説明、外務省やCSW68政府代表団構成員からユースへのメール、質疑応答を含めた2時間の内容で仮決定しました。
- ・ 今後は運営チームと報告チームに分かれて準備を行うこととしました。

報告会の準備に関して

第4回 2024年8月15日（運営チーム）

議題

- ・参加者募集方法の検討

決定事項

- ・報告会約1月前の9月1日を広報開始日と決め、スケジュール、役割分担を決定しました。

第5回 2024年9月9日（報告チーム）

議題

- ・CSW68参加報告部分の内容のすり合わせ
- ・開会挨拶、CSW概要説明、閉会挨拶の役割分担

決定事項

- ・様々な視点から経験を伝えられるよう、参加報告部分の内容を調整しました。
- ・開会挨拶等全体の進行にかかる部分では、ユースとしての想いを盛り込むこととし、原稿作成担当者を決定しました。

第6回 2024年9月9日（運営チーム）

議題

- ・CSW68報告会当日の役割分担
- ・参加申し込み状況の確認、追加の広報先の検討

決定事項

- ・CSW68報告会当日の司会、質疑応答の進行等に関して詳細を決定しました。
- ・CSW68報告会のインパクトをより大きくするため、新聞社をはじめとするメディアにも告知することとしました。

第7回 2024年9月21日（報告チーム）

議題

- ・CSW68報告会当日の流れの確認

決定事項

- ・直前の準備内容、来賓対応等の詳細と役割を決定するとともに、運営に係る詳細な部分の未決定事項は運営チームに申し送りました。

第8回 2024年9月24日（運営チーム）

議題

- ・CSW68報告会当日の運営の詳細確認

決定事項

- ・Zoom担当者、記録担当者、タイムキーパーを決定しました。
- ・参加者へのリマインドや報告会終了後に対応しきれなかった質問へ回答することを決定しました。

第9回 2024年9月29日（報告チーム・運営チーム合同直前ミーティング）

議題

- ・詳細の流れ、運営方法の再確認

報告会の準備に関して

CSW68報告会における参加者募集方法

CSW68報告会の参加者募集にあたり、幅広い層からの参加を促進するために、様々なアプローチを採用しました。特に、国際機関や国際系、ジェンダーに関心のある人や次年度のCSWに参加を希望する方を主なターゲットとしました。

1.告知の開始

まず、2024年9月1日に報告会の告知活動を開始しました。報告会の趣旨や日時、開催方法などの基本情報を明記した招待状を、外務省関係者に向けて送付しました。同時に、各NGOや関連団体にも参加者募集の協力を依頼し、多くの方々にイベントを周知しました。

2.招待状の送付と管理

「CSW68ユース報告会来賓招待状」を作成し、賓客リストに基づいて送付を行いました。招待状の作成は1名が担当し、3名が送付や賓客とのやり取りを分担しました。複数の担当者での対応により、スムーズなコミュニケーションを実現しました。

3.イベントページ用フライヤーの作成

PeatixやSNSなどでの告知に使用するフライヤーも作成し、より多くの方々に興味を持っていただけるよう工夫しました。フライヤーにはイベント名、開催日、参加対象、得られる情報、申し込み方法（Google フォームのQRコード）、連絡先、主催者名などを記載しました。フライヤーのデザインは、堅苦しさを排除し、ポップで親しみやすいものとししました。デザインは8月22日までに完成させました。

4.参加者募集フォームの設定

参加者登録にはGoogleフォームを使用しました。これにより、効率的に参加者情報を収集し、イベント運営に役立てました。フォームには、以下の情報を入力できるよう設定しました：

- 名前
- メールアドレス
- 所属（大学・会社など）
- 年代
- CSWの認知状況と参加希望
- 情報入手経路
- 質問やコメント

これらの項目を設定することで、参加者の属性や関心度を把握し、報告会での説明内容の調整や資料準備に役立てました。

5.多方面からの告知活動

報告会の告知は、関係団体や大学内での告知、個人のネットワークやSNSを活用した個別発信を通じて行われました。若年層に向けた新規開拓を目的とし、広報活動を進めました。メンバー間で積極的にアイデアを出し合いながら、ターゲット層へのリーチを図りました。

6.申し込み情報の管理

申し込み情報の管理については、2名が担当し、Googleフォームに入力された参加者リストの整備や当日運営の準備を行いました。これにより、当日の受付や資料配布などの運営が円滑に進められるようになりました。

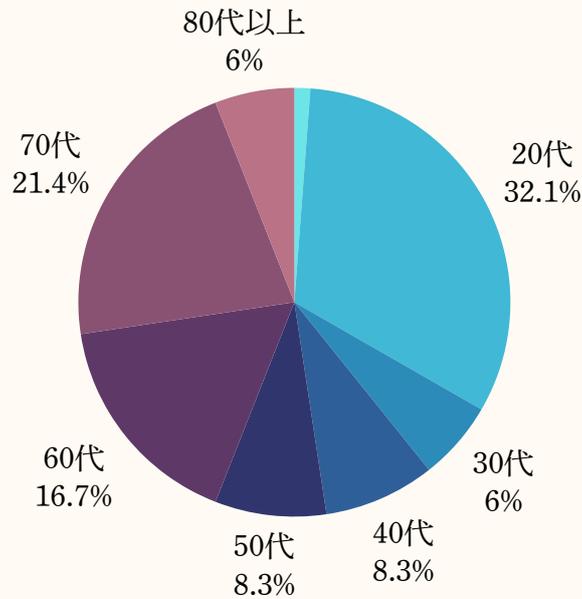
以上のプロセスを通じて、幅広い層の参加者を募ることができ、CSW68報告会は多くの方々に興味を持っていただけるイベントとして成功を収めました。

申込者概要

登壇ユース所属団体などのCSWに関連する市民団体や教育機関を中心に、計84名からの申込があり、年代やCSW参加経験に関しては様々なバックグラウンドの方々にご参加いただきました。具体的な申込者の属性や申込経緯は以下の通りです。

- 年代(N=84)

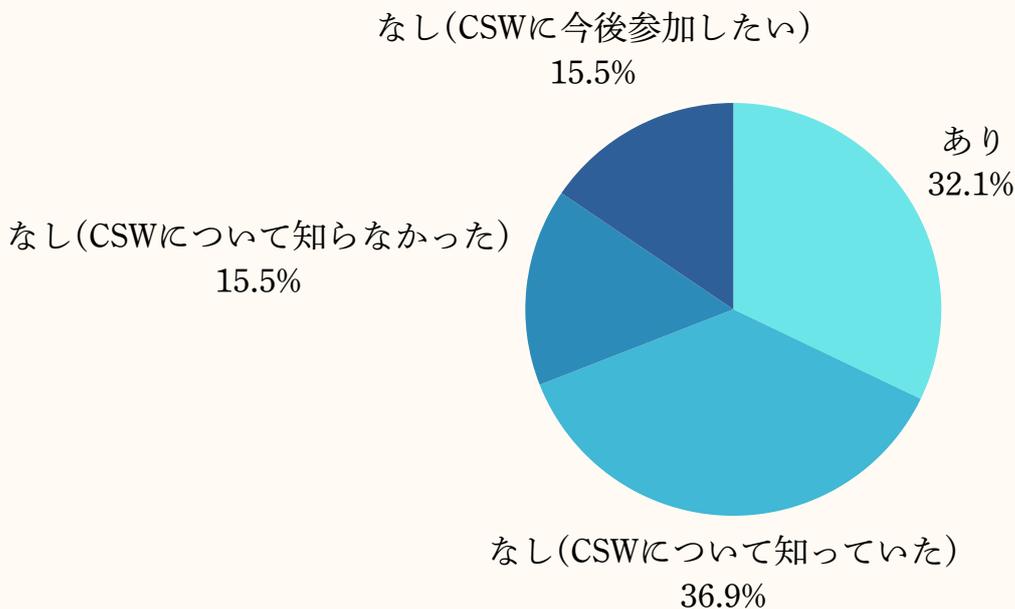
10代1名, 20代27名, 30代6名, 40代7名, 50代7名, 60代14名, 70代18名, 80代以上5名



- CSW参加経験(N=84)

あり 27名【32%】，なし（知っていた） 31名【37%】

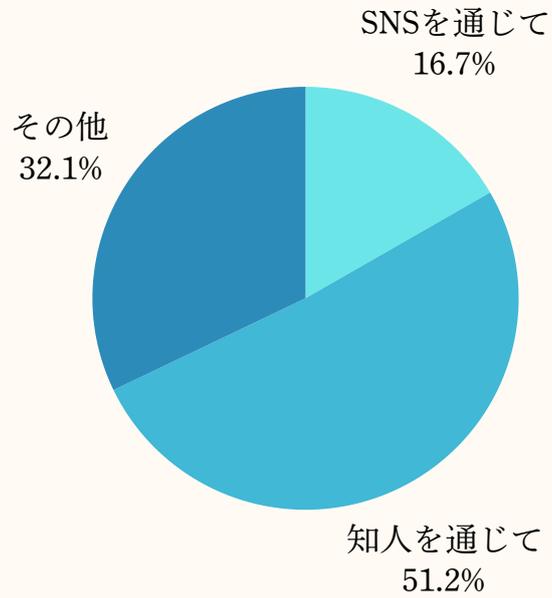
なし（知らなかった） 13名【15%】，なし（今後参加したい） 13名【15%】



申込者概要

- 報告会を知った経緯(N=84)

SNSを通して14名【17%】，知人を通して43名【51%】，その他27名【32.1%】



報告会のアンケート結果

本イベントの事後アンケートには合計33名の回答をいただきました。本報告では、アンケート結果をもとに満足度、感想、改善点について取りまとめています。

まず、満足度については1（満足）から5（不満足）の5段階で評価しました。その結果、満足度の高い順より、評価1が19件（57.6%）、評価2が7件（21.2%）、評価3が0件、評価4が2件（6.1%）、評価5が5件（15.2%）でした。多くの参加者がイベントの質を一定程度評価する一方で、一部には改善が求められる点があったことが伺えます。

参加者から寄せられた感想には、イベント全体の質、ユースの発表内容、そしてイベントの意義に関するコメントが多くみられました。イベントの進行については「スムーズであった」「運営が完璧だった」との肯定的な評価が多く寄せられました。ユースの発表については、「刺激を受けた」「新たな発見があった」というポジティブな意見が多く、特にユースのイニシアティブに対する称賛の声が目立ちました。ただし、「発表時間が短かった」との声も少なからず見受けられ、更なる改善が求められます。また、イベント全体の意義については、「ジェンダー平等を考える良い機会だった」「世界と繋がるきっかけになった」との声があがり、多くの参加者にとって有意義な時間であったことが窺えます。その一方で、男性参加者の少なさや更なる多様性の確保を課題としてあげる意見もありました。

改善点としては、まず時間配分に関する要望が多く寄せられました。参加者は発表時間をより長く設けることを希望しており、また、各ブレイクアウトルームでの議論内容を全体で共有する仕組みを求める声もありました。更に、背景知識を補う資料や発表のサマリーを事前に提供することで、特に初参加者にとっての参加ハードルを下げることを提案されました。また、参加者の多様性の確保に関しても、男性参加者が少ない現状への改善策を求める声があり、特にユースの多様性を広げるための取り組みが期待されています。更に、CSW自体の社会的認知度が低いとの指摘があり、啓発活動や広報活動の強化を求める声も目立ちました。

以上の結果から、今回のイベントは多くの参加者にとって有意義なものだった一方で、イベントの構成や準備段階での工夫を更に加えることで、更なる満足度の向上が可能であることが明らかになりました。今後のイベント運営においては、発表時間の拡充、議論内容の共有、背景知識を補う資料の提供、男性を含む多様な参加者の促進、そしてCSWの認知度向上に向けた広報活動の強化を重要な課題としたいと思います。

CSW日本ユース協議会メンバーの所属・派遣されたNGOについて

CSW日本ユース協議会のメンバーが所属、派遣されたNGOの情報、CSW69派遣募集の情報、ユースメンバーの報告書は以下からご確認ください。

(順不同)

◆国連NGO国内女性委員会

ホームページ

<https://un-ngojpwomen.org/>

◆認定NPO法人日本BPW連合会

ホームページ

<https://www.bpw-japan.jp/japanese/>

CSW68参加報告

https://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html#csw_report

◆一般社団法人 大学女性協会

ホームページ

<https://www.jauw.org/>

CSW68参加報告

<https://www.jauw.org/activity/2024csw68report2/>

◆JAWW（日本女性監視機構）

ホームページ

<https://jaww.info/index.php>

CSW68参加報告

<https://jaww.info/aboutcsw-3.html>

◆公益財団法人 日本YWCA

ホームページ

<https://www.ywca.or.jp/>

CSW68参加報告

<https://www.ywca.or.jp/news/humanrights/gender/20240605-csw-report/>

おわりに

本報告書の作成に先立ちまして、この度はCSW68ユース報告会への開催に際し、多くのご支援をいただき誠にありがとうございました。当報告会には、約60名のご参加があり、CSW日本ユース協議会一同、心よりお礼申し上げます。

また、大崎様、紙谷様、鴨澤様、古本様におかれましては、お忙しいところご出席を賜り、ユース協議会へのエールやコメントをくださりありがとうございました。いただいたお言葉を胸に、ユース一同、各々の立場からより一層精進してまいります。

CSW69では、国連NGO国内女性員会が3NGOの主担当として、日本政府代表部と共催でサイドイベントをNYで対面で行う方向性で準備を進めています。テーマは、女性・平和・安全保障（WPS）を取りあげる予定で検討中とのことです。

また、次回CSW69の優先テーマは「北京宣言と行動綱領の実施、および第23回特別総会の成果の検討と評価」です。検討には、行動綱領の実施、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの達成、および持続可能な開発のための2030アジェンダの完全実現への貢献に影響を与える現在の課題の評価が含まれます。（出典: UN WOMEN 「CSW69/Beijing+30(2025)」より）

たくさんのミーティングを重ね、試行錯誤しながらも、各ユースがそれぞれの立場にて経験したことを報告書という形で一つにまとめることができたことを喜ばしく思います。

次年度以降、また各団体からユースの派遣者が選出され、3月にはNYに飛び立つと思います。今回の報告会及び本報告書が、派遣団体の枠組みを超えたユースメンバーの交流を促進するための理由の一端を担うことができたと思います。また、報告会の実施や報告書の執筆は必須ではありませんが、団体の垣根を超えた交流に加えて、自らの経験を振り返る絶好の機会となるため、推奨します。

また、前述したように今回の報告会、および本報告書が次年度も継続されることが望ましいと考えていますが、実際に継続されるかどうかは、次年度以降のCSW参加ユースに委ねられるというのが現状の課題です。これからCSWに参加していくユースメンバーの交流の仕方についても、議論の余地があると考えています。

今回、このような報告会が開くことができ、更に本報告書を完成することができたのは、国連NGO国内女性委員会、(一社)大学女性協会、JAWW（日本女性監視機構）、日本BPW連合会、公益財団法人日本YWCAの5団体の皆様をはじめとする、関係者の皆様のあたたかなご協力とご支援によるものです。沢山のご支援とご声援をありがとうございました。重ねてお礼申し上げます。

資料集

①企画書

CSW68 ユース報告会 概要

背景

- 各年度で情報共有が完結しており、前年度のユース代表のスピーチや NGO 向けのブリーフィングでの質疑の内容が次年度の参加者に共有されていない。
- 日本国内での CSW の認知度の低さ、参加への経済的な支援や機会の拡大の必要性を認識した。
- ユースダイアログが合意結論に反映されない現状を踏まえ、ユースが自主的に行動することの必要性を実感した。

以上の課題認識から、まずは日本のユースで団結して、縦と横の繋がりを以て協力し、次世代に繋げる作業(引き継ぎ)が必要と考えた。
引き継ぎの第一歩として、第68回CSW参加者が派遣団体の枠を超えて報告会を行う。

目的

- これからの参加者がCSWについて具体的にイメージできる機会にする。
- 会員以外の人(学生・ジェンダーに関心ある・ユース等)にCSWの認知度を高める。

参加者

- 国際機関でのキャリアや取組、ジェンダーに関心がある人(所属不問)
- CSW69への派遣に応募したい学生、若者(所属不問)
- CSW68政府代表団を構成した省庁の方々、WPSやジェンダーに関する制度・政策を立案・決定する立場にある方々(省庁内、議員の方々)

日時

2024年9月29日(日) 15時～17時

- 第一部：15時～16時30分

CSW概要説明・CSW68参加報告・質疑応答

- 第二部：16時30分～17時

よりCSWについて聞きたいことがある方は残っていただきユースメンバーが質疑に答える

会場 オンライン (Zoom Meeting、要事前申し込み)

言語 日本語

主催 CSW 日本ユース協議会

(国連 NGO 国内女性委員会、日本 BPW 連合会、日本女性監視機構 (JAWW)、

JAUW：(一社) 大学女性協会、日本 YWCA、からのCSW68 派遣ユース)

当日の流れ

第一部(15時～16時30分)

1. 開会の挨拶(10分)

- a. 団体紹介(ユース紹介)開催の背景 (日本BPW連合会/CSW68ユース代表 鈴木りゆか)
- b. 賓客の挨拶(ユースへのエールをいただく)

2. CSWの説明 (5分) (大学女性協会 横山浩花)

概要説明 CSW に詳しくない方にも分かりやすく概要を説明する。

3. ユースによる参加報告 (各NGOから5名) (1人10分程度)

CSW68 参加ユースによる実体験の共有を通して、ユースの活動や声を含めた政策決定の意義を訴える。そして、ジェンダーに関する課題やユースのCSW参加機会への意識を高める。

4. CSW68日本政府代表団員によるコメント (5分程度)

ユースの発表に対する感想や日本政府としてCSWへの想い、また国家レベルでCSWの認知度をあげるための取組の予定などについてお話をいただく。

5. 質疑応答(主にユースメンバーからの参加報告に対して) (15分)

- 事前申し込みの中にも質問を募集しておく。

6. 閉会 (5分)

- a. 集合写真
- b. 挨拶 (国連NGO国内女性委員会 木村緒実)

第二部(16時30分～17時)

- より詳しく知りたい方が残って、ユースメンバーが質疑を受ける
- ジェンダーに関する課題や国際会議、ニューヨーク渡航など興味の幅は問わないが、CSW参加に興味のある方がCSW68参加者へ自由に質問し、参加への不安を解消するとともに、次年度参加候補者への引継ぎに繋げる
- CSW69参加者のリクルート
- イベント終了後のアンケートの中にもCSWについて質問をできるようにしておき、後日当日でた質疑と合わせて回答を送る。

②フライヤー

**参加費
無料**

CSW68



ユース報告会

来賓挨拶、概要説明、参加ユースによる報告、
代表団員からのコメント、質疑応答が予定されています。

日時

9/29 日 15:00～17:00

場所

オンライン（Zoom）による開催

01	CSW68の説明
02	CSW68参加報告
03	質疑応答

CSWとは？

国連女性の地位委員会（CSW）は、1946年に国連経済社会理事会（経社理）の機能委員会の一つとして設立されました。主な目的は、政治や教育などの様々な分野で女性の地位向上に関する勧告や提案を行うことです。これらの勧告は経社理を通じて国連総会に提出されます。毎年2～3月頃、ニューヨークの国連本部で2週間にわたって年次会合が開催されます。

こんな方におすすめ！

ジェンダー平等や女性の権利に関心のある方、NGOやNPOの関係者、政策立案者や行政関係者、教育関係者や研究者、学生

申込締切
9月28日

お申込・お問い合わせ

CSW68ユース報告会 運営

✉ japaneseyouthcouncil.csw@gmail.com



③申し込み案内 (Piatix)



CSWとは？
国連女性の地位委員会（CSW）は、1946年に国連経済社会理事会（経社理）の機能委員会の一つとして設立されました。主な目的は、政治や教育などの様々な分野で女性の地位向上に関する勧告や提案を行うことです。これらの勧告は経社理を通じて国連総会に提出されます。毎年2～3月頃、ニューヨークの国連本部で2週間わたって年次会合が開催されます。

参加費 無料

こちらに関心のある方におすすめ！
ジェンダー平等
女性の権利
NPO NGO 国際機関

来賓挨拶、概要説明、参加ユースによる報告、代表団員からのコメント、質疑応答が予定されています。

日時 9/29(日) 15:00～17:00

場所 オンライン (Zoom) による開催

CSWユース報告会 運営
japaneseyouthcouncil.csw@gmail.com

Google Forms
申込締切 9月28日

9月 29 CSW日本ユース協議会
イベントは終了です (日) 15:00 | オンライン | By CSW日本ユース協議会

社会貢献/地域活性 | NGO | ジェンダー | NPO | SDGs | 行政

【参加無料！】ジェンダーに関する国際会議参加ユースによる報告会

2024年3月にニューヨークの国連本部で開かれた第68回国連女性の地位委員会（UN Commission on the Status of Women, CSW）に日本の5つのNGOから15名のユースが参加しました。世界中から集まったジェンダー平等を目指す人々と過ごした濃密な2週間の学び、経験、感じた課題、第69回CSWに向けたメッセージをお伝えします。

ジェンダー、国際会議といったキーワードにピン！と来た方のご参加をお待ちしています！

【CSWとは？】
国連女性の地位委員会（CSW）は、1946年に国連経済社会理事会（経社理）の機能委員会の一つとして設立されました。主な目的は、政治や教育などの様々な分野で女性の地位向上に関する勧告や提案を行うことです。これらの勧告は経社理を通じて国連総会に提出されます。毎年2～3月頃、ニューヨークの国連本部で2週間わたって年次会合が開催されます。

チケット
CSW68ユース報告会
満席

日時
2024/09/29 (日)
15:00 - 17:00 JST
カレンダーに追加

場所
オンライン

日時：2024年9月29日（日）15:00～17:00

場所：Zoom

内容：来賓挨拶、CSWの概要、参加ユースによる報告、代表団員からのコメント、質疑応答
第69回CSWに参加希望の方は個別により詳細な質問をしていただける時間があります。

参加費：無料

対象：どなたでも

ジェンダー平等や女性の権利に関心のある方、NGOやNPOの関係者、政策立案者や行政関係者、教育関係者や研究者、学生は特におすすめです！

日時：2024年9月29日（日）15:00～17:00

場所：Zoom

内容：来賓挨拶、CSWの概要、参加ユースによる報告、代表団員からのコメント、質疑応答
第69回CSWに参加希望の方は個別により詳細な質問をしていただける時間があります。

参加費：無料

対象：どなたでも

ジェンダー平等や女性の権利に関心のある方、NGOやNPOの関係者、政策立案者や行政関係者、教育関係者や研究者、学生は特におすすめです！

申込：下記のURLよりGoogle Formsにて登録してください（9月28日23時59分締切）
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeWin-wDdGPVjJSRQSiMeQ1VD2j4G-0P0F0Bh8NekFLKC_dgw/viewform

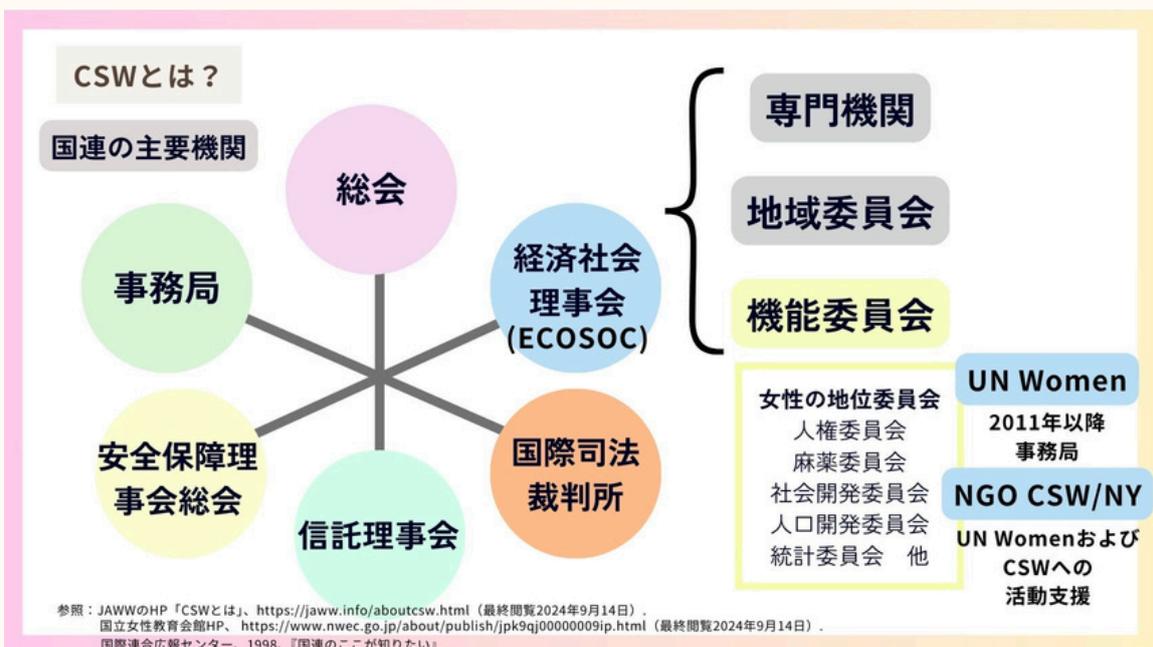
主催：CSW日本ユース協議会
（第68回CSWに参加した5団体*のユースで構成されています）
*日本女性監視機構（JAWW）、大学女性協会（JAUW）、日本BPW連合会、日本YWCA、国連NGO国内女性委員会

問合せ：CSW日本ユース協議会 japaneseyouthcouncil.csw@gmail.com

隠す

④ 投影資料

CSWの概要1



CSWの概要2

CSWとは？

国連女性の地位委員会 UN Commission on the Status of Women
グローバル政策決定機関としてジェンダー平等と女性の地位向上に取り組んでいる。

目的
政治、経済、市民、社会、教育分野における女性の権利を促進する提言と報告をまとめ、ECOSOCに提出する。

参加者 加盟国代表、国連諸機関、ECOSOCの協議資格のあるNGOなど

会議/イベント

- 優先テーマに沿った会議(加盟国代表)
- レビューテーマに沿った会議(加盟国代表)
- サイドイベント(各国政府・国連機関とNGOの共催)
- パラレルイベント(NGO主催)



参照：国立女性教育会館、2024、『第68回国連女性の地位委員会(CSW)早わかり』。

CSWとは？

CSW68 第68回国連女性の地位委員会

開催日程 2024年3月11日～22日

開催場所 国連本部、国連本部周辺、オンライン

優先テーマ ジェンダーの視点からの貧困撲滅、機構強化、資金動員によるジェンダー平等の達成と女性・女児のエンパワメントの加速（政府訳）

レビューテーマ ジェンダー平等および女性と女児のエンパワメントのための社会保護システム、公共サービスおよび持続可能なインフラストラクチャーへのアクセス(CSW63)

私の使命

- サイドイベント参加(各国政府・国連機関とNGOの共催)
- パラレルイベントの参画(NGO主催)
- 日本政府国連代表部によるブリーフィングへの参加



参照：JAWWのHP「CSWとは」、<https://jaww.info/aboutcsw.html>（最終閲覧2024年9月14日）。
国立女性教育会館、2024、『第68回国連女性の地位委員会(CSW)早わかり』。
国立女性教育会館のHP、<https://www.nwec.go.jp/about/publish/jpk9qj00000009ip.html>（最終閲覧2024年9月14日）。

CSWの概要3

CSWとは？

詳しくは、こちらをご参照ください。

UN Women	NGO CSW/NY	国立女性教育会館	JAWW (日本女性監視機構)
Commission on the Satatus of Women		『第68回国連女性の地位 委員会(CSW)早わかり』	CSWについて
			

こちらのサイトの情報はチャット欄にも載せております。

発表1

発表1

私たちも社会を変える？

市民社会とNGOの重要性を再認識して

発表者：横山 浩花
派遣団体：一般社団法人大学女性協会

発表1

自己紹介

横山 浩花 Hiroka YOKOYAMA

- ・社会学や社会史(日本史、中国史、考古学)からジェンダーに関する知見を広げる
- ・研究テーマ：日本の性教育

CSW68参加のきっかけ/目的

日本がジェンダー平等な社会になって欲しい！

- ✓国際的に問題を考えることで、日本のジェンダー平等という課題へのヒントが得られるのではないかな。
- ✓CSWに参加して、国内外のジェンダーによって起こる問題を学び、自分ごととして考えたい。

発表1

発表1

学んだこと

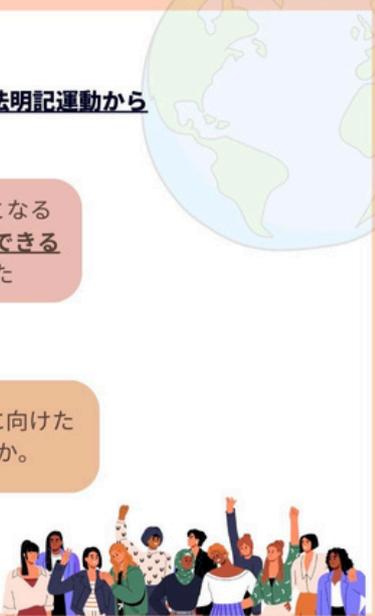
フランスの女性による人工妊娠中絶自由の憲法明記運動から

- **背景**

フランスでは、2024年3月4日に世界初となる**女性の判断で人工妊娠中絶を行うことができる自由を憲法に明記**することが決まった
- **イベントの内容**

NGOや市民団体がどうやって憲法明記に向けたムーブメント(社会運動)を起こしたのか。

開催日：2024年3月13日
主催：The French National Assembly Delegation for Women's and Equal Opportunities between Men and Women
フランス家族計画協会
タイトル：市民社会と国会議員の共通の行動：意識向上から権利へのアクセスへ



発表1

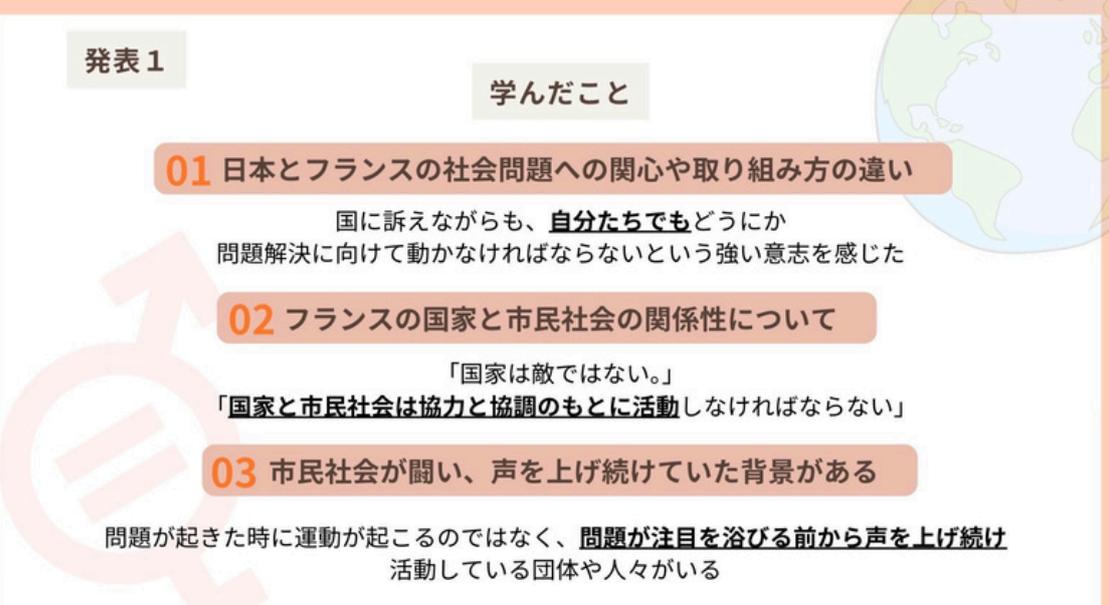
学んだこと

- 01 日本とフランスの社会問題への関心や取り組み方の違い**

国に訴えながらも、**自分たちでも**どうにか問題解決に向けて動かなければならないという強い意志を感じた
- 02 フランスの国家と市民社会の関係性について**

「国家は敵ではない。」
「**国家と市民社会は協力と協調のもとに活動**しなければならない」
- 03 市民社会が闘い、声を上げ続けていた背景がある**

問題が起きた時に運動が起こるのではなく、**問題が注目を浴びる前から声を上げ続け**活動している団体や人々がいる



発表1

発表1

NGOの役割とは？



ムーブメントのトリガーとなる



興味関心ない人を含め
多くの人を巻き込む



国会議員、研究者、
法律家、国際的な団体との
コネクション役

発表1

全体を通して

NGO、市民団体、CSWの参加者

||

私たちと同じ一般の人

WHY?



ん？と思う
(問題意識)

おかしくない？
と声をあげている人

私たちは社会を変える
パワーを持っている



発表2

発表2

たくさんの仲間と一緒に

YWCAコミュニティの経験

発表者：片桐 碧海

所属団体：日本YWCA

発表2

YWCAとは？

キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

1855年英国で始まり、今では日本を含む100以上の国・地域で活動しています。

ホームページより



発表2

発表 2



CSW68期間中に90分間のパラレルイベントを主催しました
5ヶ月近く準備を重ね、大盛況に終わりました

発表 2



様々な国のYWCAイベントを通して
いろんな考え方に触れることができました

発表3

発表3

行動することの大切さ

日本から出たことで得られた新たな視点

発表者：木村緒実
派遣元団体：国連NGO国内女性委員会



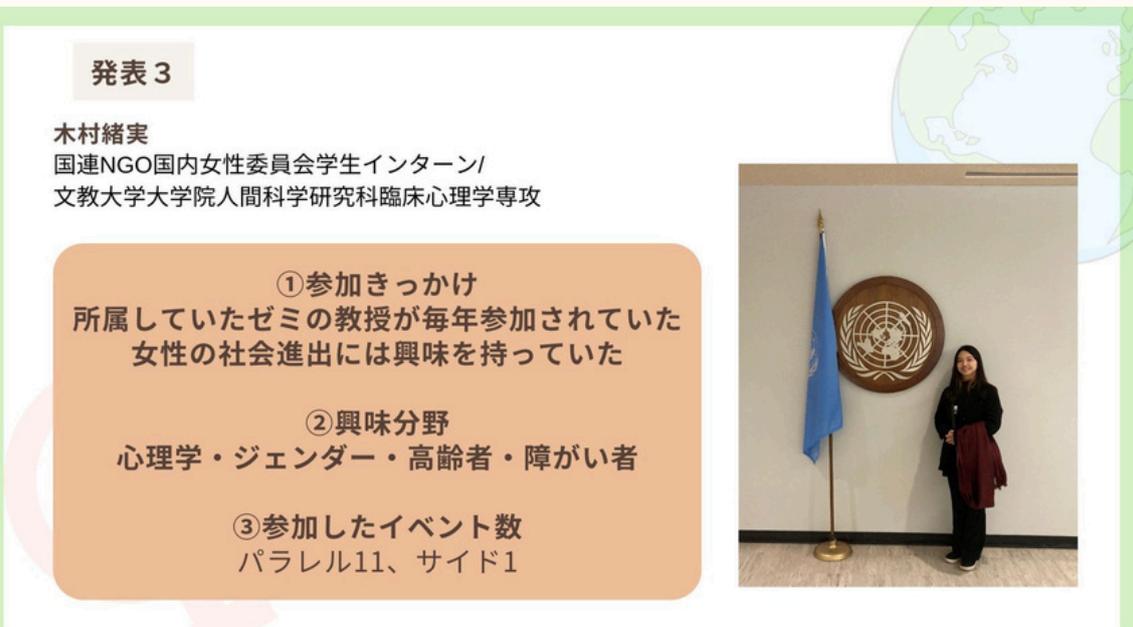
発表3

木村緒実
国連NGO国内女性委員会学生インターン/
文教大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻

①参加きっかけ
所属していたゼミの教授が毎年参加されていた
女性の社会進出には興味を持っていた

②興味分野
心理学・ジェンダー・高齢者・障がい者

③参加したイベント数
パラレル11、サイド1



発表3

発表3

特に視野が広がったと思うパラレルイベント

『気候災害、深刻化する貧困と障害者 フェミニストの対応』

主催
Shanta Memorial Rehabilitation
Center (SMRC)

発表3

- 気候変動、ジェンダー、障がいに精通した専門家によるパネルディスカッション
- 気候変動とジェンダーと障がい者の権利に焦点を当てたディスカッションを行い、重要な問題を強調し、政策変更を提唱
- 専門家だけではなく南アジアの若い学者の参加
- 手話によるろう者のリアルタイムでの参加

発表3

発表3

女性であること×○○

例えば

- ・障がい
- ・気候変動
- ・いじめ
- ・貧困
- ・ハラスメント

女性であるというだけで
問題に多くの交差性が出てくる

↓

別個のカテゴリーとしてではなく
相互に関係しているものと認識することで、
広く相補的な関係が見えてくる

発表3

今回CSW68に参加して学んだこと

- 多角的な視点を
得ること
- 他国での出来事だから
と言って
他人事ではないこと
- 怖がらずに
自分からどんどん
参加していくこと

発表4

発表 4

小さな空間から世界を知る

CSWで学んだこと、見落としていたこと

発表者：山内彩
所属団体：JAWW



発表 4

山内彩
日本女性監視機構 ユースレポーター
コロンビア大学バーナード校
心理学/人権学/その他専攻予定

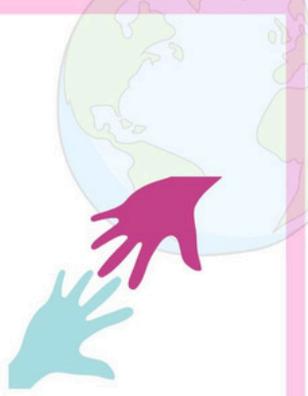
参加きっかけ

- NGOCSW65 パラレルイベントでの登壇経験
- ジェンダーに基づく暴力防止 ×テクノロジー
- 対面での国際会議の経験



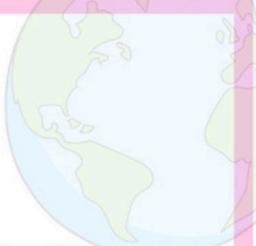
発表4

発表4 学び① 暴力問題の現状・防止について



- 貧困は暴力の引金であるとともに、間接的な暴力も引き起こす
- DVシェルターの運営
• 経済的なGBV対策の導入
- 国境を超えて重要視された加害者支援プログラム

発表4 学び② 優れた連帯・対抗



- 女性農家の政治参画
- 国連総長とのタウンホールミーティング

発表4

発表4 成果 JAWW主催 サイドイベント

CSW68
Side Event-Japan

Women's Multidimensional Poverty Challenges and Grassroots Responses: Insights from Japan, Sri Lanka, and Guatemala

March 15, 2024
8:00~9:30 EST
21:00~22:30 JST
ONLINE

Opening message:
H.E. Mr. Osamu Yamanaka/Ambassador, Deputy Permanent Representative of Japan to the United Nations

Moderator:
Dr. Yumiko Yamamoto/Associate Professor, Okayama University, Japan

Panelists & Presentation Titles:
Ms. Chie Matsumoto/Journalist, media cooperative Unfiltered
"Challenges facing elderly women, Grassroots organizing in Japan"

Dr. Sepali Kottagoda/Director Programmes, Women's Economic Rights and Health, Women and Media Collective, Steering Committee of Asia Pacific Women's Watch (APWW)
"Caregiving and Resilience in times of Crisis: Some Insights from Sri Lanka"

Mr. Akihiro Tsukamoto (MBA) Advisor for Financial Inclusion Promotion with Immigrant Remittance in Guatemala for Japan International Cooperation Agency (JICA)
"Empowerment of Women and Improvement of their Economic Conditions through the Use of Credit Unions' Financial and Non-Financial Services"

Click here for the sign-up link

<https://docs.google.com/forms/d/1f1A2p6S2epn26Lxv2t4UJkM5a3b3k3i3i3Mr3ekv0e2D8Ug31e3r3a3p3e3r3e3g>

Organized by: Government of Japan to the United Nations / CSW68 (Japan Women's Watch) / The United Women's Committee of the United Nations / The International Women's Year United Group (IWIYUG)

女性の多次的貧困について

発表4 課題

- 見落としている声はまだある
- 国際会議におけるユースの経済的支援



発表5

発表5

「人権」の観点から ジェンダー平等を語る

開会式のステートメント抜粋、ユース代表インタラクティブ・ダイアログのご報告

発表者：鈴木りゆか（日本政府代表団ユース代表）
派遣元団体：日本BPW連合会

発表5

活動内容：CSW68開会式でのステートメント（一部抜粋①）

事務総長 アントニオ・グテーレスさん

- 「国連のシニアマネジメントのレベルにおいて、歴史上初めて完全なパリテ（男女同数・平等50%）が実現した」
- 「国連機関がパリテを実現できるのであれば、各国の政府も実現可能である」

UN Womenの事務局長 サミ・バホスさん

- 「ジェンダー平等に関する取り組みは常に優先事項である」
- 「フェミニズムにおける草の根レベルでの活動の重要性」

発表5

発表 5

活動内容：CSW68開会式でのステートメント（一部抜粋②）

マラウイのユース代表 スティシーさん

- 「経済、政治、社会、健康に関わる重要な意思決定がなされる場に若者が不在である」
- 「包括的な意思決定の実現を目指して声を上げることが重要」

ウガンダのデリゲートの方

- 「植民地主義に基づく歴史的な不当な扱いは、特にグローバルサウスにおける女性や少女が直面する貧困や周縁化、排斥、経済格差、不安定な社会状況などの問題に影響をもたらしている」

発表 5

ユース代表インタラクティブ・ダイアログの概要

✓ CSW67（2023年度）にて初めて国連CSWの公式会合として認められた

- 開催日時：2024年3月14日（木） 15:00-18:00（EDT）
- 優先テーマ：ジェンダーの視点からの貧困撲滅、機構強化、資金動員によるジェンダー平等達成と女性・女児のエンパワーメントの加速（政府訳）
- 目的：貧困課題への取組みにおけるユースの役割について検討し、各々の経験や知見、教訓、グッド・プラクティスについて共有し合うことで、ジェンダーの視点に基づく機構づくりや資金調達強化に繋げること
- 内容：国連加盟国のユースが任意で集い、前半に代表のユース5名によるパネルディスカッションが行われ、後半に各国のユース代表を含む形でオープンディスカッションが実施された
 - オープンディスカッションでの発言を希望する場合は、各席に設置されている指定のマイクのボタンを押し発言の意志表示をする必要がある
 - 議長より自国の国名が呼ばれた者には3分間のステートメントを残す権限が付与される

発表5

発表5

ユース代表インタラクティブ・ダイアログ：スピーチの内容



スピーチ発表中の様子（提供: UN Women）



他の加盟国のユース代表との記念写真

スピーチの概要

- 日本や世界各国の政治分野におけるジェンダー不平等への指摘

**「代表」を単なる形式的なリーダーではなく
「変化の促進要因」として捉え直すことが必要**

- ビザの発給拒否、紛争、経済的困難、障がい、ケア労働への従事などによって意思決定の場から排除されている人々がいる
 - 本来であれば、このようなマイノリティの方々が「変化の担い手」として、政策立案過程に携わるべき主体である
- 障壁の除去、エンパワーメント、経済的支援策を講じることで、彼女らが指導的地位に就くことができる環境を構築する必要がある

発表5

今後に向けて

- ジェンダー平等にかかる議題は、常に優先事項である
 - 「人権」の観点より、政治的イデオロギーにかかわらず推し進める必要がある
- 主要な意思決定の場から排除される若年層を意思決定の場へ！
 - 日本における被選挙権年齢の引き下げを求めます！
- 日本の政治分野における法律型のジェンダー・クォータ制の導入を求めます！
- 第68回CSWの優先テーマより、CSWユース派遣において日本政府からの経済的支援を求めます！

CSW日本ユース協議会メンバー



報告会当日の参加メンバーとの記念撮影

宇佐	碧 (Midori USA)
臼杵	ふたば (Futaba USUKI)
小川	真理絵 (Marie OGAWA)
片桐	碧海 (Aomi KATAGIRI)
木村	緒実 (Tsugumi KIMURA)
鈴木	りゆか (Riyuka SUZUKI)
住谷	友結 (Yuyu SUMIYA)
千葉	奏美 (Kanami CHIBA)
東上	菜々子 (Nanako TOJO)
丸井	萌 (Moe MARUI)
柳	瑠音 (Rune YANAGI)
山内	彩 (Aya YAMAUCHI)
横山	浩花 (Hiroka YOKOYAMA)
吉田	弥生 (Yayoi YOSHIDA)
吉原	佐保 (Saho YOSHIHARA)

五十音順

CSW68ユース報告会 活動報告書
発行 2025年2月28日
編集責任 CSW日本ユース協議会
連絡先 japaneseyouthcouncil.csw@gmail.com